

(代理・奥田泰史私学部
参事官補佐)、松井一郎大
阪府知事(代理・向井正
博大阪府教育長)、河田
梯一日本私立学校振興・
共済事業団理事長が登壇
した。日本私立大学協会
からは、大沼 淳会長
(代理・福井直敬副会
長)が挨拶に立ち、「こ
の度の盛典を機に、品格
ある由緒正しい名門私学
を確固たるものとし、新
時代にふさわしい学院を
目指すため、「人間力育
成教育体系」の構築をは
じめ、更なる教育、経営
改革に全学を挙げて取り
組み、さらに燦然たる歴
史を創造するものと強く
確信し、大きな期待を申

し上げる」と期待をこめ
て祝辞を述べた。その
後、野田賢治公益財団法人
大阪府私学総連合会理
事長が祝いの言葉を述べ
た。

また当日は、親子三
代・四代在学表彰も行わ
れた。

その後、観世流・梅若
能楽師の山中返晶氏より
能楽『高砂』が演じられ
た後、同大学津田謹輔学
長より謝辞が述べられ
た。

一〇〇周年の節目を迎
え、あらためて、さらな
る発展を目指し品格ある
由緒正しい歴史と伝統を
後世に引き続く決意を誓
いあった。

リスク管理なと実践報告

明治学院
大で開催 海外体験学習の研究会

二〇一六年度第一回大 験学習 研究会が六月十
学教育における「海外体 八日、明治学院大学にお



二い氏 いて開催
ユつ藤 された。
ミに齋 海外で
コンる 実施する
・ヨシ 実務する
クシ明 フィール
リ一説 ドスタテ
リケテ イヤイン

ターンシップなどのプロ
グラムの事前・事後の授
業の構築や、体験を学び
に変容させるリフレクシ
ョンの在り方、授業の構
築、リスク管理に関する
実践報告が行われた。

まず、箕曲在弘氏(東
洋大学社会学部)から
「海外スタディツアーに
おける授業づくり」と題
して、同大学における
「社会文化体験演習」に
ついて紹介。授業づくり
において「深い関与」を
導く仕掛けと、効果的な
学習成果を生み出す仕掛
け作りが重要だと述べ、
演習ではチャレンジング
な課題設定と、チームワ
ークを発揮できる場をつ
くり、学生がホリスティ
ックに学び、さらに小さ
な成功体験の積み重ねを
行っている」と報告した。

次に、酒井由美子氏(中
央大学法学部)は、「国
際インターンシップの実
践と課題」について説明
し、同大学法学部におけ
るインターンシップにつ
いて解説した。同大学で
は、海外実習先でのプロ
アクティブな態度、批判
的思考、リサーチやイン

タビュー実施のための英
語力の向上につながる授
業の紹介をした。また、
学部間の情報共有・相互
学習の強化、若手の担当
教員の動員、教職協働、
さらに学生の支援体制の
維持が課題であるとし
た。

続いて、和栗百恵氏
(公立大学法人福岡女子
大学国際文学部)より
「高等教育で培われるベ
き資質、能力としての
Reflexivityと海外
体験学習」について解説
した。同大学のスリラン
カプログラムを紹介し、
年間を通じてリフレクシ
ョンの機会をちりばめ、
目的、目標の明確化をは
かり、自分や状況を客体
化する能力を高められる

仕組みをつくっているこ
とを報告した。

最後に、齋藤百合子氏
(明治学院大学国際学
部)は、「危機管理から
体験と学びを支えるリス
ク・コミュニケーション
へ」について述べ、これ
までの危機「管理」とい
う、管理側(大学組織、
教員)中心の発想ではな
く、リスク・コミュニケ
ーションが必要であると
報告した。同大学では、
二〇一四年から全学的に
危機管理支援を民間業者
に委託(二四時間のヘル
プデスク、緊急時の安否
確認業務など)、出発前
危機管理セミナー、この
七月には危機管理シミュ
レーションを実施するこ
と等を報告した。